

クラス番号	902	ゼミタイプ	エクスカージョン型
		担当教員名	矢崎 裕美子
テーマ	当事者側・行政側の視点から地域住民と行政とのつながり，働き方を考える		
ゼミナール概要			
目的、内容、方法等： 本授業では，顧客側（地域住民のような行政のサービスを受ける側）と働く側の両視点を学習し，地域住民と行政とのつながりや自治体の持つ課題，（主に）行政としてどのように働くことが問題解決につながるのかを考えます。具体的には，前期に地域住民の求めるものを知り，後期に行政としての働き方を知るための学習をします。前後期通して，アンケート調査やインタビュー等を実施する予定です。 また，受講者の希望を見ながら地域住民や行政ではない第三者的な方（地元 NPO や社協など）にゲスト講師をお願いしたり，施設訪問等を実施したりすることも検討します。 授業計画： <前期> 前期は「住民が行政に求めていること」をテーマに，顧客側の視点に立ちます。 ①地域住民と行政とのかかわりについてグループで考えたりディスカッションしたりする ② ①についてテーマを絞り，地域住民が行政に対し何を求めているかを考える。 必要に応じて新聞や書籍等の文献を参照する ③ ②について地域住民へのインタビューまたはアンケートを実施する ④ ③の分析を行い，まとめ，発表する <後期> 後期は「（主に）行政で働くこと」をテーマに，働く側の視点に立ちます。 ⑤ 前期の内容を受け，グループごとに興味のある職場を決定する ⑥ ⑤のグループで，実際に働いている人にインタビューを実施する計画を立てる ⑦ 働いている人にインタビューを実施する ⑧ インタビューをまとめ，発表する ⑨ 年間の学習をふりかえり，地域住民と行政とのつながりや自治体が持つ課題，行政として働くことについて考察を深める			
担当教員からのメッセージ			
わたしは人のキャリア，特に高校生から大学生，大学生から社会人への「移行期」を心理学的に研究しています。この時期はもともと環境的，心理的变化が著しい上，現代社会もめまぐるしく変化しています。新しい環境に身を置く際には，「リアリティ・ショック」という理想や予想と現実とのギャップが誰にでも起こります。しかし，そのギャップがあまりにも大きいと，自身の不適応につながりかねません。本授業で地域住民と行政とのつながりを考えることは，住民のニーズや自治体が持つ課題，働く人の実際を知るだけでなく，みなさんが働く際のそうしたギャップを減らす役割もあると考えています。			